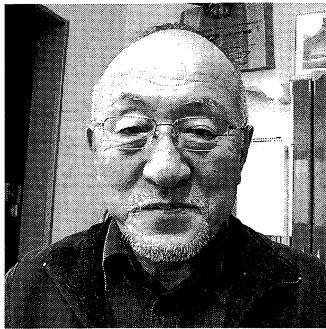




新しい建築方式“core-sys建築”の提案により、  
倉庫、工場建設を、経済性<より安く>と耐久性  
<ノンクレーン>を、品質<性能>で締めくくる。  
効率的な生産空間の提案と施工！



【商号】 (株)コア  
【所在地】 261-0012 千葉市美浜区磯辺2-17-15  
【TEL】 043-277-3691  
【FAX】 043-277-3670  
【代表者】 八島 紘一  
【資本金】 20,000 (千円)  
【営業種目】 千葉県知事登録・特定建設業 工場・倉庫・無柱空間の建築、工事  
【ホームページ】 <http://www.core-system.co.jp/>  
メール：k-yasima@core-system.co.jp

倉庫・工場は、生産機材の代表的なものと言って良い。生産機材である限り、製品原価を構成するものであり、目的と用途に合致した構造で、経済性と合理性、耐久性を追求したものであるべきです。

しかし、設計事務所やゼネコンから上がってくる計画図面は、オーバースペック気味のものや、見積金額が肥大化したものが多く、ぜい肉が落としきれていない！

そこで、今回は、倉庫・工場の建設を考える上での新しい視点の提案として、“core-sys建築”方式による、経済性<安さ>と耐久性<ノンクレーン>、高品質<性能>の追求を掲げ、実績を上げている(株)コア・代表取締役 八島 紘一氏にインタビューした。

まず、御社の事業内容を教えてください。

一言で言えば“生産的空間のご提案”です。

(株)コアは、生産的な建築空間の経済性・合理性・耐久性を徹底的に追求しご提案することに全エネルギーを注いでいます。

生産空間には、工場、倉庫、スポーツ施設、大店舗、車庫、農業施設等々がありますが、その中でも**工場、倉庫などの大空間建設**に徹しています。その他の、例えば住宅・マンション建設など中・小空間には、まったく興味を示さない会社です。

そうは言っても、体操クラブ施設(600㎡)、量販店施設(1000㎡)などが、中にはありますが、これも、施主の方から、当社の“空間提案”に共鳴していただいて逆提案で実現したものです。

そんな訳で当社は、“空間屋”ということになりますか。(新語?・笑)

最近では、施主からの用途提案に感心させられることも多くなってきました。

得意分野は何ですか?

ずばり得意分野は“生産的大空間”建築ですね！

大空間のという言葉には、“**中間柱がない**“つまり”**無柱空間**”という条件が含まれています。フォークリフトが走り回る物流倉庫、種々の機械が設置される工場で、柱がない空間の引き合いをいただいた場合で、施主が経済性・耐久性に重点を置いているケースでは、ほとんど在来工法に勝利して受注できています。

大きいものでは、柱スパン(間柱なしの空間)が30mで、桁行100mの倉庫及び工場があります(実績4件)。最も多い規模は、500~1400㎡の工場、倉庫ですね！(理論的には、60mの柱スパン<中間柱なしの大空間>が可能となっています。)

当社の場合は、提案と予算を同時的に、施主と協議しながら進めることを得意にしています。付帯設備として事務所の併設は当然ですが、最近では、固定及び移動式のラック併設のケースも増えてきました。こういうものは、建物と総合的に設計してしまっただ方が合理的です。

貴社の建築物の“キャッチフレーズ”は何ですか?

キャッチフレーズは、“**無柱空間における合理性の追求**”です。

施主の用途を理解した上で、中柱のないできるだけ広い空間と合理的な建物形状、物流に配慮したラック、生産機械の配置等を提案してゆく中での追求です。

屋根及び壁の材料は、性能本位で取り揃えて、デザインや施主さんの好みによる選択を制限させていただいているので、その代わりに“耐久性”として用途に応じた性能を徹底的に追求して施主様の満足度を高め、ノンクレーンを目指します。

また、すべての受注建築物の納期を、受注後5ヶ月と“短納期”にしています。(確認申請を含めて、基礎・土間・建物の、あくまでも平均的なものです。)

結果として、最大の成果が経済性。“予想を超える安い空間”の実現です。この安いという傾向は、規模が大きくなるほどに顕著になってきます。建築費が、“在来工法の3分の2”に収まる！これも当社の重要なキャッチフレーズです。

#### なぜ、そんなことが出来るのですか？

それは、提案の基本を、“システム建築”に置いているからです。システム建築の工場を動かすコンピューターの端末を当社のパソコンに導入して設計、見積を行っています。その中から工場、倉庫についての当社のノウハウを加えて磨き上げたものを、特に“core-sys建築”としてご提案申し上げています。システム建築の特徴(出来ることとできない事)を十分に施主さんに理解していただいた上で提案に入るようにしています。

#### “core-sys建築”を、もう少し説明してください。

竣工した建物は、余程注意してみないと普通の建物と区別が付きません。建物形状もまちまちのように見えます。しかし、その建築形状には一定の規則性があります。この規則性をスーパーコンピューターに覚え込ませて、設計、見積、生産、施工に活用することで、経済性と耐久性という両極の課題を高い品質(性能)で解決しようとしているものです。この考え方をシステム建築といいますが、“core-sys建築”は、倉庫、工場の用途に向けて更に進化させたものを言います。

#### そのような特徴的な建築業務を立ち上げた経緯は？

この30年間、建築業界にあって合理的で経済的な“空間”を追跡し続けてきました。プレハブ建築、膜構造(テント)建築と変遷して、ようやく、“core-sys建築”にたどり着いたというのが私の経歴です。

“core-sys建築”との出会いは、膜構造(テント)建築の営業中に、システム建築に負けるというどんでん返しにあって、それからシステム建築→“core-sys建築”の虜になってしまいました。おそらく、“core-sys建築”が私の最終ゴールだろうと思っています。

#### 最後に、今後の抱負についてお聞かせください。

“core-sys建築”方式の建築工法の存在は、まだまだ、世の中に知られていません。面白いことに、大手スーパーゼネコンとお付き合いをしている企業さんほど、ご存知ありません。

従来、施主さんは、設計は設計事務所、施工はゼネコンへ、と考えています。また、提案と構造計算を我々が行うので、街の設計事務所さんも渋い顔をして、知っていても自分からは、“core-sys建築”を提案しないため、この流れからは“core-sys建築”は姿を見せてくれません。我々としてはダイレクトに、直接、施主さんにアピールして行くほかに道はないわけです。

ここに、今後“core-sys建築”が、深く静かに浸透してゆく余地があるだろうと思っています。今後10年で、この建築方式は、常識化するでしょう。

そのような訳で、今後10年の間に、“core-sys建築”を、普及拡大して、長いお付き合いが出来る顧客を獲得することが当面の目標です。

当社は創立12年目時点で、“core-sys建築”を、床面積で60,000㎡建設することが出来ます。(年間5,000㎡ペース！)

まだまだ先は長いのですが、潜在市場は未知の大陸のように広がっていると確信して、じっくり取り組んでゆきたいと思っています。

#### 差し支えなければ、最後に、今現在施工中の物件は、どのようなものですか。教えてください。

だんだん当社の知名度も浸透してきたのでしょうか。物件は、徐々に大型化の傾向となり、それなりに、“core-sys建築”の利点が、より多く発揮できるので喜ばしく思っています。

昨年末で、旭市の1500㎡超の倉庫を無事完了して、平成24年は、横芝光町・八千代市・香取市で各々1400㎡の工場・倉庫に着工します。

新年の出だしとしては、悪くはありません！有難うございました！